

生活支援論演習

担当教員 田口 太郎

配当年次 4年

単位区分 選必

開講時期 第1学期

授業形態 演習

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

“疾患や障害を持ちながら地域で生活する人（具体的には難病患者）を対象に、他学科の学生とチームを組み、フィールドワーク（難病相談支援センターへの訪問や対象者への聞き取り調査等）をとおして、対象者が地域で生活する実情を理解し生活支援の在り方を考える。又、その成果を学内外の関係者に報告することを通して、多職種の専門職が協働することの必要性、その意義について理解を深める。”

【授業の展開計画】

<展開概要>

：科目選択者がチームを組み、疾患や障害を持ちながら地域で生活する人（難病患者）を担当し、健康管理、家庭や地域生活の実情や課題を共有し、生活支援の在り方を考え、その結果について関係者に対する報告会を実施する。

<展開>

- 1回目（オリエンテーション）：学習目標・授業展開を理解し、自己の将来像と科目の内容を結びつけ、履修の目的を明確できる。（全員）
- 2・3回目（グループワーク：GW）：難病を抱えながら地域で生活する人の生活の様子をイメージでき、生活の質に影響を及ぼす要因と健康の質に影響する要因について、考えることができる。（全員）
- 4・5回目（GW発表）：事前学習の発表と討議。フィールドワーク計画立案（全員）
- 6・7回目（フィールドワーク）：難病相談・支援センターの役割と機能、そこで働く人々について理解することができる。協力者の体験から、生活の実際と医療との関係、生活や健康を支えるもの、医療・福祉・保健の課題を知ることができる。（全員）
- 8回目（GW発表）：フィールドワークの成果発表と振り返り。今後のフィールドワーク計画（全員）
- 9～12回目（フィールドワーク）：難病を抱えてもQOLを保ち地域で生活するには、どのような課題があるのか、課題を解決するための条件は何か、フィールド調査を通して仮説を発展、修正できる。（全員）
- 13・14回目（GW発表）：病を持って生活の質を保ち生活ができる条件と、実現のために保健医療者にできることについて、問題を絞り、説得力のある発表ができる。病を持つ人にとっての体験を語る意味、医療職者にとっての患者の声を聴く事の意味を考えることができる。（全員）
- 15回目：報告会、まとめ(全員)

【履修上の注意事項】

- 1) 生活支援論（1年後期）を履修していること。
- 2) グループワークや討論など参加型の手法を取り入れるため、授業以外の学習時間を活用し課題を整理することが必要になるため、学生間で調整を行い、グループ学習を進めること。

【評価方法】

発表内容40%、報告会30%、報告書30%

【テキスト】

大熊由紀子他、患者の声を医療に生かす 医学書院

【参考文献】

カワチ・イチロウ他、ソーシャルキャピタルと健康、等

地域福祉論 I

担当教員 豊田 保

配当年次 4年

単位区分 選必

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

1. 地域福祉の理念および内容について理解する。
2. 地域福祉の歴史的発展の経緯および現状について理解する。
3. 在宅福祉サービスの内容や推進方法およびサービス提供システムについて把握する。
4. 在宅福祉サービスの実態について把握する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	新しい社会福祉システム これまでの社会福祉と地域福祉の発展経過
3	新しい社会福祉システム 社会福祉のメインストリームとしての地域福祉とその主体
4	地域福祉の基本的な考え方 地域福祉理論の発展
5	地域福祉の基本的な考え方 地域自立生活支援について
6	地域福祉の基本的な考え方 地域のとらえ方と保健・医療・福祉圏域について
7	地域福祉の主体と福祉教育 福祉教育とその歩み
8	地域福祉の主体と福祉教育 福祉教育の概念と内容
9	行政組織と民間組織の役割と実際 地方分権と地域福祉計画について
10	行政組織と民間組織の役割と実際 社会福祉協議会について
11	行政組織と民間組織の役割と実際 社会福祉法人とボランティア活動について
12	行政組織と民間組織の役割と実際 民生委員・児童委員、保護司、コミュニティビジネスについて
13	コミュニティ・ソーシャルワークと専門職 コミュニティワークの考え方と方法
14	コミュニティ・ソーシャルワークと専門職 専門職チームアプローチと住民参加について
15	まとめ

【履修上の注意事項】

地域福祉に関する日常のニュースや報道に関心を払うとともに、実習やボランティアで見聞きしたことを土台にして、地域福祉の理論がどのように実際の場面で活かされているかを考察しながら受講し、事前および事後学習を必ず行うこと。

【評価方法】

レポートの提出と期末試験の総合点で判定する。したがって、受講学生は講義に必ず出席し、レポート課題については必ず提出すること。

【テキスト】

社会福祉士養成講座編集委員会編 9 『地域福祉の理論と方法』（最新版）、中央法規出版を使用する。

【参考文献】

参考書については、別途、授業の中で提示する。
各講義ごとに資料を配布する。

地域福祉論Ⅱ

担当教員 豊田 保

配当年次 4年

開講時期 第2学期

単位区分 選必

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

1. 利用者本位の視点に立ち、地域での自立的生活支援のあり方や内容について理解する。
2. 地域福祉計画の考え方や方法を理解し、福祉における計画化の重要性について理解する。
3. 福祉教育の考え方や方法を理解し、地域共生社会のあり方と必要性を理解する。
4. 社会福祉協議会やボランティア活動などの具体的な地域福祉の実践や地域福祉に関わる制度・社会資源について理解する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	住民参加と方法・意義について
2	ソーシャルサポート・ネットワークの考え方
3	地域社会における社会資源の活用・調整・開発 社会資源と活用法
4	まちづくりとソーシャルアクションについて
5	地域における福祉ニーズの把握方法と実際 福祉ニーズとアウトリーチについて
6	地域における福祉ニーズの把握方法と実際 福祉ニーズの把握方法について
7	地域トータルケアシステムの構築と実際 地域トータルケアシステムの考え方と方法について
8	地域トータルケアシステムの構築と実際 地域トータルケアシステムの展開方法
9	地域トータルケアシステムの事例と専門職の研修について
10	地域における福祉サービスの評価方法とその実際 背景と評価の考え方
11	地域における福祉サービスの評価方法とその実際 福祉サービスの評価方法
12	イギリスでの地域福祉に関する考え方について
13	アメリカでの地域福祉に関する海外の考え方について
14	地域福祉推進の課題と展望
15	まとめ

【履修上の注意事項】

地域福祉論Ⅰの理解の上にも本講義を行うので、1学期の地域福祉論Ⅰを履修すること。また、毎回の講義に際しては、講義内容を事前学習するとともに、講義後は講義内容の再学習を行うこと。

【評価方法】

レポートの提出と期末試験の総合点で判定する。したがって、受講学生はレポート課題について必ず提出すること。

【テキスト】

社会福祉士養成講座編集委員会編 9 『地域福祉の理論と方法』（最新版）、中央法規出版

【参考文献】

参考書については、必要に応じて授業の中で提示する。
各講義ごとに資料を配布する。

社会保障論 I

担当教員 河谷 はるみ

配当年次 4年

開講時期 第1学期

単位区分 選必

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

社会保険は、公的扶助とならんで社会保障制度の重要な柱として発展してきた。はじめに、社会保障の概念や対象及び理念を学び、欧米や日本の社会保障の発展過程を概観する。そして、社会保障の体系と財源、費用を学んだ後、各論（特に、年金保険制度と医療保険制度）の具体的な内容について理解する。社会保障論 I では、少子高齢化社会を迎えて、社会保障をどのように再構築したらよいかを考えることができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション、社会保障の概念
2	現代社会における社会保障制度の課題
3	欧米における社会保障の歴史（発展過程）
4	日本における社会保障の歴史（発展過程）
5	社会保障制度の体系と概要（社会保険と公的扶助）
6	社会保障の財源と費用
7	社会保障の行財政
8	年金保険制度の沿革と概要
9	年金保険制度の具体的な仕組みと財政、給付の内容
10	年金保険制度をめぐる動向と今後の課題
11	医療保険制度の沿革と概要
12	医療保険制度の具体的な仕組みと財政、給付の内容
13	医療保険制度をめぐる動向と今後の課題
14	年金保険制度と医療保険制度の将来像
15	社会保障制度の再構築

【履修上の注意事項】

- (1) 必ず、テキストを持参して受講すること。
- (2) 予習をして授業に臨み、授業後は、復習をすること。

【評価方法】

試験80% レポート20%

【テキスト】

社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座12 社会保障【第5版】』（中央法規出版、2016年）

【参考文献】

掠野美智子・田中耕太郎編『はじめての社会保障【第13版】』（有斐閣、2016年）
今井伸編『わかる・みえる社会保障論-事例でつかむ社会保障入門-』（みらい、2016年）

社会保障論Ⅱ

担当教員 河谷 はるみ

配当年次 4年

開講時期 第2学期

単位区分 選必

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

社会保障論Ⅰで学んだ、社会保障の概念や対象及びその理念について再度、確認する。社会保障論Ⅱでは、介護保険制度、労働者災害補償保険制度、雇用保険制度について理解できる。特に、非正規労働者の増加、派遣切りによる大量失業者、失業の長期化など雇用保険に課された課題は多い。そして、社会保険と社会扶助の関係、公的保険制度と民間保険制度の関係について理解できる。諸外国における社会保障制度の概要を整理した後、日本の社会保障の将来像について考えることができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション、社会保障の概念（社会保障論Ⅰの復習を含む）
2	介護保険制度創設の経緯と具体的な仕組み
3	介護保険制度をめぐる動向と今後の課題
4	労働者災害補償保険制度の具体的な仕組み
5	労働者災害補償保険制度をめぐる動向と今後の課題
6	雇用保険制度の具体的な仕組み
7	雇用保険制度をめぐる動向と今後の課題
8	労働保険制度（労働者災害補償保険制度と雇用保険制度）の課題と展望
9	社会保険と社会扶助の関係
10	公的保険制度の民間保険制度の関係
11	社会福祉制度の概要（公的扶助、社会手当、児童福祉、障害者福祉、高齢者福祉）
12	社会保障・社会福祉制度に対する相談援助活動や地域活動の実際（グループワーク）
13	諸外国における社会保障制度の概要
14	社会保障の国際化（日本の社会保障制度との比較を含む）
15	社会保障の将来像

【履修上の注意事項】

- (1) 必ず、テキストを持参して受講すること。
- (2) 予習をして授業に臨み、授業後は、復習をすること。

【評価方法】

試験80% レポート20%

【テキスト】

社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座12 社会保障【第5版】』（中央法規出版、2016年）

【参考文献】

梶野美智子・田中耕太郎編『はじめての社会保障【第13版】』（有斐閣、2016年）

今井伸編『わかる・みえる社会保障論－事例でつかむ社会保障入門－』（みらい、2016年）

国際保健活動論

担当教員 秦 亮

配当年次 4年

単位区分 選必

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

国際保健分野において、実際にどのような活動が実施されているのか。国際協力を実行する際には、どのような問題を抱えているのか。また、我が国は国際保健分野において、どのような役割を果たしているのか。これらの質問を考えながら、国際保健の歴史を通じ、世界各地における健康対策プロジェクトや、医療保健調査などを学んでいく。また、災難による危機管理や、感染症対策などのトピックスを取り組んで、地球規模の健康問題を勉強し、国際保健現場における必要な能力を習得し、自ら実践できるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	国際保健の歴史的回顾と日本保健医療の概観
2	日本保健医療の経験と世界への応用に向けて
3	ヘルス・プロモーションの歩み方
4	国際保健医療分野におけるセクター・プログラム・アプローチの動向
5	紛争／災難後の復興と国際医療保健
6	災難と危機管理：スマトラ島沖地震から学ぶ
7	紛争時、紛争後における国際保健?メンタル・ヘルスの役割について
8	母子保健分野において、国際協力事業からの経験
9	世界の人口問題における新動態
10	結核対策から見た国際保健協力のあり方
11	エイズの予防と国際保健活動
12	インフルエンザ対策について
13	新興感染症対策について（SARSの事例を中心的）
14	国際保健分野における渡行医学の役割について
15	試験

【履修上の注意事項】

授業後に復習しておくこと。

【評価方法】

講義への積極的参加（10%）・講義中課題への取り込み（20%）・期末レポート（70%）で評価する。

【テキスト】

日本国際保健医療学会編「国際保健医療学」杏林書院

【参考文献】

高橋茂樹等編 「公衆衛生」第九版 海馬書房

Paul F. Basch 「Textbook of International Health」Oxford university press

研究方法論

担当教員 金子 憲章、徳永 淳也、北田 勝浩、石川 裕子、石井 里加子、古賀 由紀子、淀川 尚子、松尾 文

配当年次 3年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

科学的研究とは何かを、一般的な歯学領域やそれに関連する分野の著書、専門分野の学術雑誌掲載論文などを参考にしながら理解し、科学的思考や科学的方法論を学ぶことができる。また、4年生において行われる卒業研究・卒業論文をふまえて、学生がテーマを考えるための方法論と卒業研究・卒業論文の執筆に対する考えかたを構築することができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	研究とは：意義（金子）
2	研究テーマに対する考え方：テーマの選択（石川）
3	研究計画とその考え方（金子）
4	研究の倫理（古賀）
5	実験研究（北田）
6	文献検索の方法と整理法（松尾）
7	研究テーマの設定（淀川）
8	研究の進め方（石川）
9	データの収集・解析（北田）
10	統計学（徳永）
11	統計処理（徳永）
12	疫学の実際（徳永）
13	論文作成の手順・論文の構成（石川）
14	プレゼンテーションの方法（石井）
15	卒業研究報告書と卒業論文との違い（金子）

【履修上の注意事項】

講義は教科書を必ず持参する。
必要な場合、一部は講義中に資料を配布する。授業前に次授業項目について教科書の関連部分を読み予習しておくこと、また授業後は復習すること。

【評価方法】

授業担当者が、授業ごとにレポート・小テスト等で評価し、最終的に科目担当者が集計し評価する。

【テキスト】

歯科衛生研究の進め方 論文の書き方 第2版 監修：武井典子、金澤紀子。合場千佳子、石井拓男、岩久正 医歯薬出版

【参考文献】

卒業研究 HAND BOOK 監修：眞木義信 クインテッセンス出版

卒業研究

担当教員 近藤 悠美

配当年次 4年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 2

【授業のねらい】

これまでの学内講義・演習、臨地・臨床実習を通して関心を持ったことや問題意識の中からテーマを決定する。研究の手順と方法の基礎を学び、客観的な視点から考え卒業論文報告書を作成する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	研究の進め方1
2	研究の進め方2
3	研究テーマの検討
4	論文検索・紗読
5	論文検索・紗読
6	研究テーマの決定
7	研究計画書作成
8	論文検索・紗読・討議
9	論文検索・紗読・討議
10	論文検索・紗読・討議
11	論文検索・紗読・討議
12	卒業研究報告書作成
13	卒業研究報告書作成
14	卒業研究報告書作成
15	卒業研究報告書作成（最終校正）

【履修上の注意事項】

ゼミ形式

【評価方法】

成果物（70%）、履修態度・レポート・討議内容等（30%）で評価する。

【テキスト】

適宜紹介する。

【参考文献】

適宜紹介する。

卒業研究

担当教員 古賀 由紀子

配当年次 4年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 2

【授業のねらい】

口腔保健学を客観的に評価する力を養いながら、自分の関心領域に関しての情報を収集し総括できる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	論文抄読① 提示論文を読み討論を行う
3	論文抄読② 各自が準備した論文を読み討論を行う
4	論文抄読③ 各自が準備した論文を読み討論を行うとともに、抄読のまとめをする
5	論文の概要を知る（構成要素と研究方法）
6	研究計画書の作成方法、資料収集方法を知る
7	研究計画書の作成をおこなう（テーマの決定、研究方法、今後の計画、資料・文献）
8	研究計画の発表と協議
9	研究を深める① テーマに沿って文献購読、必要な資料収集
10	研究を深める② 分析
11	研究を深める③ 執筆（個別指導）
12	研究を深める③ 執筆（集団指導）
13	研究を深める④ まとめ
14	研究発表を行い研究協議をする
15	研究の総括を行う

【履修上の注意事項】

- ・ 授業内容に従って次の課題を出すので、その課題を解決して毎回のゼミに臨むこと。
- ・ 論文、文献については授業の前に準備してゼミ生に配付。各自配付されたものを読んで授業に臨むこと。

【評価方法】

レポート20% プレゼン20%、成果物60%として評価する

【テキスト】

適宜資料を配布する

【参考文献】

卒業研究

担当教員 金子 憲章

配当年次 4年

単位区分 選必

開講時期 第1学期

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

口腔保健学科で3年間学んだことを基礎に、口腔保健学に対応した研究テーマを探り、卒業研究のテーマを決定する。文献的考察および教員の指導のもとにテーマに対する理解を深め、その内容を卒業研究報告書にまとめることができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	卒業研究概要説明（研究の方針、研究の進め方）
2	テーマの検討、文献検索
3	テーマの検討、文献検索
4	テーマの検討、文献検索
5	テーマの検討、文献検索
6	卒業研究の構成・文献検索：指導
7	卒業研究の構成・文献検索：指導
8	卒業研究の構成・文献検索：指導
9	卒業研究の構成・文献検索：指導
10	卒業研究の構成・文献検索：指導
11	研究内容のプレゼンテーション
12	卒業研究報告書作成
13	卒業研究報告書作成
14	卒業研究報告書作成（校正）
15	卒業研究報告書作成（最終校正）

【履修上の注意事項】

教員指導のもとで自主的にテーマについて探究する。

【評価方法】

卒業研究報告書70%、ディスカッションの内容30%

【テキスト】

特に使用しない。

【参考文献】

テーマに即した文献検索ができない場合は、必要な文献を紹介する。

卒業研究

担当教員 松尾 文

配当年次 4年

単位区分 選必

開講時期 第1学期

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

テーマに沿った文献検索の方法を理解する。論文や文献を客観的に評価し、総括する力を身に着ける。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション 研究プロセス、文献検索について理解する
2	論文の抄読 教員が提示する論文で行う
3	研究テーマ決定
4	各テーマの現状を理解し、問題意識を明確にする 各自必要な文献を集め、発表、討議する
5	各テーマの歴史的背景を理解する 各自必要な文献を集め、発表、討議する
6	研究計画
7	先行研究の抄読と討議
8	先行研究の抄読と討議
9	先行研究の抄読と討議
10	先行研究の抄読と討議（英語）
11	先行研究の抄読と討議（英語）
12	卒業研究報告書の作成
13	卒業研究報告書の作成
14	卒業研究報告書の作成
15	卒業研究報告書の作成（最終）

【履修上の注意事項】

自分のテーマに関する基礎知識は予習・復習して臨むこと。

【評価方法】

卒業研究報告書60%、履修態度（レポート、ディスカッションの内容）40%

【テキスト】

適宜指示する。

【参考文献】

適宜紹介する。

卒業研究

担当教員 北田 勝浩

配当年次 4年

単位区分 選必

開講時期 第1学期

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

学んだ専門的理論と知識、口腔保健推進の視点をもとに、学生個人が抱いた問題意識を手がかりとして、主体的に研究テーマを設定する。文献検索や社会調査手法等を援用しながら、テーマについての研究活動を実施し、論理的思考能力の醸成をはかる。活動報告書を作成し研究テーマを総括することにより、口腔保健学を科学的に推進することができる。

【授業の展開計画】

知的興味および将来の方向性に沿ってテーマを選定し、計画・立案に基づいて研究論文の系統的検索を実施する。その結果を卒業研究報告書にまとめることにより、研究への理解と意欲を培う。

週	授 業 の 内 容
1	卒業研究の概要
2	歯科衛生研究の考え方
3	研究のプロセスと成果発表（1） 主な研究方法、研究の進め方とまとめ方
4	研究のプロセスと成果発表（2） 研究成果の発表の仕方
5	研究成果のまとめ方
6	研究計画の検討 テーマの検討、研究概要の検討、情報収集・文献検索の実施
7	研究題目、研究計画の決定
8	研究の実施（1） 研究論文の系統的検索
9	研究の実施（2） 研究論文の系統的検索、検索論文の科学的吟味
10	研究の実施（3） 研究論文の系統的検索、検索論文の科学的吟味
11	研究の実施（4） 検索論文の科学的吟味
12	卒業研究報告書作成（1）
13	卒業研究報告書作成（2）
14	卒業研究報告書作成（3）
15	卒業研究報告書完成、提出

【履修上の注意事項】

問題意識を持ち、主体的に研究を行うように努める。実施にあたっては、進捗状況を確認しながら、個別の指導・対応となる。

卒業研究報告書は、口腔保健学科の卒業研究報告書執筆要領に従い作成し、定められた手続きを経て期日内に提出する。

【評価方法】

日常的学习成果（40%）、卒業研究報告書（60%）を総合して評価する。

【テキスト】

歯科衛生研究の進め方 論文の書き方 第2版：武井典子、金澤紀子、合場千佳子、石井拓男、岩久正明 編（医歯薬出版）

【参考文献】

適宜紹介する

卒業研究

担当教員 石井 里加子

配当年次 4年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 2

【授業のねらい】

学習した基礎知識を基に、歯科衛生に関する疑問や課題を選定し、その問題に対して客観的・論理的に思考する力を養う。更に、情報を整理、分析し報告書を作成する力を習得する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	卒業研究の目的と授業展開について
2	研究テーマの検討1
3	研究テーマの検討2
4	文献検索1
5	文献検索2
6	研究課題目の決定および研究計画の作成
7	研究計画の完成
8	研究の実施：論文抄読1
9	研究の実施：論文抄読2
10	研究の実施：論文抄読3
11	研究の実施：論文抄読4
12	卒業研究報告書の作成1
13	卒業研究報告書の作成2
14	卒業研究報告書の作成3
15	卒業研究報告書の提出

【履修上の注意事項】

ゼミ形式。各自の興味や将来の方向性によってテーマを選定し、主体的に取り組む。課題に対しては、事前に準備しプレゼン・討論に臨む。

【評価方法】

プレゼン・討論・協議等の内容、態度：40% 報告書：60%

【テキスト】

適宜紹介する

【参考文献】

適宜紹介する

歯科衛生研究の進め方・論文の書き方。金澤紀子，武井典子，合場千佳子，岩久正明編，医歯薬出版

卒業研究

担当教員 石川 裕子

配当年次 4年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 2

【授業のねらい】

口腔保健学の専門家として科学的視点を持つことができるようになるために、卒業研究報告書にまとめる力を習得する。①疑問点をもち課題を設定できる②自分の考えをまとめ考察することができる③決められた体裁を守り卒業研究報告書を作成することができる

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション（研究とは、卒業研究の目的、研究テーマについて、授業の流れ）
2	文献検索方法
3	文献検索
4	文献検索
5	論文の構成、研究倫理
6	研究計画書の作成
7	研究の実施
8	研究の実施
9	研究の実施
10	研究の実施
11	研究内容の実施
12	卒業研究報告書の作成
13	卒業研究報告書の作成
14	卒業研究報告書の作成（校正）
15	卒業研究報告書の完成、まとめ

【履修上の注意事項】

教員指導のもとで自主的に研究を進めること。ただし、定期的に教員に連絡を取り、進捗状況を知らせること。

【評価方法】

卒業研究報告書70%、研究計画書など研究途中作成したレポート30%。

【テキスト】

適宜資料を配布する。

【参考文献】

必要時適宜紹介する。

卒業研究

担当教員 前原 朝子

配当年次 4年

開講時期 第1学期

単位区分 選必

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

実習や授業を通して興味・関心をもった事柄について先行研究論文を読み、ディスカッションを行うことを通じて問題意識をもち、主体的に取り組む態度と研究的思考を身につける。授業を通して得た知見を報告書としてまとめる力を身につける。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	卒業研究オリエンテーション（授業展開等）
2	研究テーマの検討と文献検索について
3	研究テーマ検討のための文献検索と論文抄読
4	研究テーマ検討のための文献検索と論文抄読
5	研究テーマの決定と研究計画書の作成
6	研究計画書の完成
7	研究テーマに関する文献検索と論文抄読・ディスカッション
8	研究テーマに関する文献検索と論文抄読・ディスカッション
9	研究テーマに関する文献検索と論文抄読・ディスカッション
10	研究テーマに関する文献検索と論文抄読・ディスカッション
11	卒業研究報告書の作成
12	卒業研究報告書の作成
13	卒業研究報告書の作成
14	卒業研究報告書の作成
15	卒業研究報告書の提出

【履修上の注意事項】

ゼミ形式で行います。各自テーマを選定し、主体的に行動すること。積極的に意見交換に参加してください。教員より適宜課題を提示し、レポート提出を求めます。

【評価方法】

報告書：70% グループワーク時の発言内容20% 課題レポート内容10%

【テキスト】

適宜紹介する

【参考文献】

適宜紹介する

卒業研究

担当教員 淀川 尚子

配当年次 4年

単位区分 選必

開講時期 第1学期

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

ライフステージやコミュニティの視点から人間の口腔保健にかかわる諸問題をテーマに本質を探究する力を習得する。研究活動を通して、研究対象への関心を深め、論理的思考をもって取り組み、報告書を作成する力を習得できる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	卒業研究の概論(研究の意義)
2	研究倫理
3	研究テーマの検討
4	文献検索の方法と活用
5	論文抄録(論文の構造と内容、サマリーの作成方法)
6	研究計画書の作成方法
7	研究計画書の作成
8	調査および分析：論文抄録(集団討議) 1
9	調査および分析：論文抄録(集団討議) 2
10	調査および分析：論文抄録(集団討議) 3
11	調査および分析：論文抄録(集団討議) 4
12	分析結果および考察
13	分析結果および考察
14	研究報告書作成
15	研究報告書作成

【履修上の注意事項】

ゼミ形式

論文抄読においては事前にレジユメを準備して討議に臨み、討議内容を研究に生かしていくこと。

【評価方法】

卒業研究報告書の内容(60%)、ディスカッションの内容等(40%)を総合的に判断する。

【テキスト】

適宜配布する。

【参考文献】

適宜紹介する。

卒業研究

担当教員 徳永 淳也

配当年次 4年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 2

【授業のねらい】

口腔保健学が対象とすべき諸問題を人間のライフステージやコミュニティという枠組みの中で、客観的に捉え、分析、総括する力を育てることを目的とする。専門的理論と知識に加えて学生自身の問題意識を手がかりとして、個別テーマを設定し、集団討議、指導教員とのディスカッションを通じて研究報告書を作成する。その過程で文献やデータを批判的に吟味する力、論理的思考力ならびに表現力を身につけることが目標である。

【授業の展開計画】

1. 研究活動概論(研究とは何か)
2. 研究テーマの検討(問題意識の研究テーマへの高め方)
3. 文献検索の方法(情報はどこにどのような形で存在するか)
4. コンピュータによる文献検索の実際(データベース活用法)
5. 文献整理方法の理解(思考を誘う情報整理とは)
6. 論文抄読(論文の構造と内容についての解説と理解)
7. 論文抄読(論文評価の要点とは)
8. 論文抄読(論文サマリーの作成方法について)
9. 研究計画書作成(研究テーマ、デザイン決定方法の解説と理解)
10. 研究計画書の作成(研究における倫理的配慮とは)
11. データ分析(統計学概論とコンピュータによるデータ管理)
12. 統計ソフトによる統計分析事例紹介(統計パッケージの種類と使用方法)
13. 分析結果の読み方
14. 考察(考察の論文における意味の理解と具体的展開方法)
15. 論文の各構成要素間の整合性の取り方と効果的執筆

【履修上の注意事項】

ゼミ形式の演習形態をとり、内容の順序性、階層性を各講義が持っているため、単位認定は全回出席を基本として行う。また、論文抄読には、活発な議論を助けるために各自が事前にレジメを作成して出席し研究テーマの論理構成を行うこと。

【評価方法】

集団討議の内容40%、研究報告書の評価(客観性、論理性、結果分析等)60%の割合で評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

特に指定しないが、プリント等を適宜配布する。

卒業研究論文

担当教員 近藤 悠美

配当年次 4年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

【授業のねらい】

これまでの学内講義・演習、臨地・臨床実習等を通して関心を持ったことや問題意識の中からテーマを探り、口腔保健の視点から研究テーマ・方法を決定する。研究目的に合った方法で研究を実施、卒業研究論文を作成する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	研究の進め方1	16	データ集計、分析
2	研究の進め方2	17	データ集計、分析
3	研究テーマの検討	18	データ分析
4	文献検索・紗読	19	論文執筆
5	文献検索・紗読	20	論文執筆
6	研究テーマの決定	21	論文執筆
7	研究方法の検討、文献検索・紗読	22	論文執筆
8	研究方法の検討、文献検索・紗読	23	中間発表報告
9	研究方法の決定、文献検索・紗読	24	論文執筆
10	研究計画書作成	25	論文執筆
11	データ収集、文献検索	26	論文執筆
12	データ収集、文献検索	27	論文執筆
13	データ収集、文献検索	28	卒業研究論文発表準備
14	データ収集、文献検索	29	卒業研究論文発表会
15	データ収集、文献検索	30	ゼミ論文集の作製

【履修上の注意事項】

ゼミ形式
各自、研究計画書を立てて自主的に研究を進めること。

【評価方法】

成果物（70%）、履修態度・レポート・討議内容等（30%）で評価する。

【テキスト】

適宜紹介する。

【参考文献】

適宜紹介する。

卒業研究論文

担当教員 松尾 文

配当年次 4年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

【授業のねらい】

講義や実習を通じて、学生個人が抱いた問題意識を手がかりとして主体的に研究テーマを設定する。創造的かつ科学的に口腔保健学研究を推進する能力を身につける。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション	16	データの集計と分析
2	論文の抄読 教員が掲示する論文で行う	17	データの集計と分析
3	研究テーマの決定	18	データ分析
4	各テーマの現状を理解する	19	データ分析
5	各テーマの歴史的背景を理解する	20	卒業研究論文執筆（個別指導）
6	研究計画立案	21	卒業研究論文執筆（個別指導）
7	先行研究の抄読と討議	22	卒業研究論文執筆（個別指導）
8	先行研究の抄読と討議	23	卒業研究論文執筆（個別指導）
9	先行研究の抄読と討議	24	中間発表
10	先行研究の抄読と討議（英語）	25	卒業研究論文執筆（個別指導）
11	先行研究の抄読と討議（英語）	26	卒業研究論文執筆（個別指導）
12	研究計画（研究計画の修正）	27	卒業研究論文執筆（個別指導）
13	研究計画（研究計画書作成）	28	卒業研究論文執筆（個別指導）
14	データ収集	29	卒業研究論文最終確認
15	データ収集	30	卒業研究論文発表

【履修上の注意事項】

自分のテーマに関する基礎知識は予習・復習した上で臨むこと。

【評価方法】

卒業研究論文60%、履修態度（レポート、ディスカッションの内容）20%、プレゼンテーション内容20%

【テキスト】

適宜指示する。

【参考文献】

適宜紹介する。

卒業研究論文

担当教員 淀川 尚子

配当年次 4年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

【授業のねらい】

ライフステージおよびコミュニティの視点から人間の口腔保健にかかわる諸問題をテーマに本質を探究する力を滋養する。研究活動を通して研究対象への関心を深め、論理的思考および倫理的態度をもって論文を作成する力を習得することができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	卒業研究の概論(研究の意義)	16	結果の要約2
2	研究テーマの検討	17	中間報告および研究計画の確認
3	文献検索の方法と活用	18	論文の構成
4	論文抄録(論文の構造と内容)	19	論文執筆(緒言)
5	論文抄録(論文サマリーの作成方法)	20	論文執筆(対象と方法)
6	研究テーマの決定	21	論文執筆(結果)1
7	研究計画の検討	22	論文執筆(結果)2
8	研究計画書の作成	23	論文執筆(考察)1
9	調査データの収集：論文抄録(集団討議) 1	24	論文執筆(考察)2
10	調査データの管理：論文抄録(集団討議) 2	25	論文執筆(考察)3
11	調査データの分析：論文抄録(集団討議) 3	26	論文執筆(考察)4
12	調査データの分析：論文抄録(集団討議) 4	27	論文執筆(要旨)
13	調査データの分析：論文抄録(集団討議) 5	28	プレゼンテーション資料作成
14	調査データの分析：論文抄録(集団討議) 6	29	プレゼンテーション資料作成
15	結果の要約1	30	卒業研究論文提出

【履修上の注意事項】

ゼミ方式

論文抄読においては事前にレジユメを準備して討議に臨み、討議内容を研究に生かすこと。

【評価方法】

卒業研究論文の内容(40%)、ディスカッションの内容(40%)、プレゼンテーション(20%)を総合的に判断する。

【テキスト】

適宜配布する。

【参考文献】

適宜紹介する。

卒業研究論文

担当教員 北田 勝浩

配当年次 4年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

【授業のねらい】

学んだ専門的理論と知識、口腔保健推進の視点をもとに、学生個人が抱いた問題意識を手がかりとして、主体的に研究テーマを設定する。文献検索や社会調査手法等を援用しながら、テーマについての研究活動を実施し、論理的思考能力の醸成をはかる。卒業研究論文を作成し研究テーマを総括することにより、口腔保健学を科学的に推進することができる。

【授業の展開計画】

知的興味および将来の方向性に沿ってテーマを選定し、計画・立案に基づいて研究を実施する。その結果を卒業研究論文にまとめることにより、研究への理解と意欲を培う。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	卒業研究の概要	16	研究の実施（8）
2	歯科衛生研究の考え方	17	研究の実施（9）
3	主な研究方法、研究の進め方とまとめ方	18	研究の実施（10）
4	研究成果の発表の仕方	19	研究の実施（11）
5	研究成果のまとめ方	20	研究の実施（12）
6	テーマおよび研究概要の検討	21	研究の実施（13）
7	検索論文の吟味に基づく研究計画の検討	22	研究の実施（14）
8	研究題目、研究計画の決定	23	研究の実施（15）
9	研究の実施（1）	24	研究結果のまとめ
10	研究の実施（2）	25	卒業研究論文作成（1）
11	研究の実施（3）	26	卒業研究論文作成（2）
12	研究の実施（4）	27	卒業研究論文作成（3）
13	研究の実施（5）	28	卒業研究論文作成（4）
14	研究の実施（6）、中間評価	29	卒業研究論文完成、提出、成果発表準備
15	研究の実施（7）、研究内容の再検討、修正	30	卒業研究成果発表

【履修上の注意事項】

問題意識を持ち、主体的に研究を行うように努める。実施にあたっては、進捗状況を確認しながら、個別の指導・対応となる。

卒業研究論文は、口腔保健学科の卒業研究論文執筆要領に従い作成し、定められた手続きを経て期日内に提出する。

【評価方法】

日常的学习成果（20%）、卒業研究論文（60%）、卒業研究成果発表（20%）を総合して評価する。

【テキスト】

歯科衛生研究の進め方 論文の書き方 第2版：武井典子、金澤紀子、合場千佳子、石井拓男、岩久正明 編（医歯薬出版）

【参考文献】

適宜紹介する。

卒業研究論文

担当教員 古賀 由紀子

配当年次 4年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

【授業のねらい】

研究の方法を学び、研究論文を作成する過程を通して創造的かつ科学的に研究することができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション	16	研究方法に沿ってデータ収集
2	論文抄読① 提示論文を読み討論を行う	17	データの整理
3	論文抄読② 各自準備論文を読み討論を行う	18	データの分析
4	論文抄読③ 各自準備論文を読み討論を行う	19	中間発表会と研究協議
5	論文の概要を知る（構成要素）	20	卒業研究論文執筆① 執筆要領について
6	研究計画書について	21	卒業研究論文執筆② 図表、引用文献等
7	テーマの検討	22	卒業研究論文執筆③ 序論、方法
8	先行研究の調査	23	卒業研究論文執筆④ 結果、考察
9	先行研究の調査の発表	24	卒業研究論文執筆⑤ 結語、要旨
10	研究計画（テーマ）	25	研究発表
11	研究計画（資料、研究スケジュール）	26	卒業研究論文執筆⑥ 校正
12	研究計画（対象、方法の検討）	27	卒業研究論文確認
13	テーマに沿った資料・文献収集	28	卒業研究論文最終確認
14	資料文献整理	29	研究論文発表と研究協議
15	研究方法に沿ってデータ収集	30	最終校正と製本

【履修上の注意事項】

・毎回の授業に沿った課題を提示するので、次時にはその課題を解決して臨むこと。また、提示された論文や自分で選んだ文献についてゼミ生分準備して配布する。他のメンバーは配布された論文等を読んでゼミに臨むこと。ゼミが終わる毎にゼミで指摘されたことを修正しさらに自分で進めておく。

【評価方法】

卒業研究論文90%、討論資料5%、プレゼンテーション5%として評価する。

【テキスト】

適宜資料を配布する

【参考文献】

卒業研究論文

担当教員 金子 憲章

配当年次 4年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

【授業のねらい】

口腔保健学科で3年間学んだことを基礎に、口腔保健学に対応した研究テーマを探り、教員の指導と文献的考察により卒業研究論文のテーマを決定する。必要なデータ収集(実験も含む)を行い、卒業研究論文としてまとめることができる。また、研究内容のプレゼンテーションおよび質疑応答ができる。

【授業の展開計画】

週	授業の内容	週	授業の内容
1	卒業研究論文概要説明(研究方針・進め方)	16	データの収集(実験も含む)・文献検索
2	テーマの選択・文献検索	17	データの収集(実験も含む)・文献検索
3	テーマの選択・文献検索	18	データの収集(実験も含む)・文献検索
4	テーマの選択・文献検索	19	データの収集(実験も含む)・文献検索
5	テーマの選択・文献検索	20	卒業研究論文の構成・作成
6	研究方法の選択(実験も含む)・文献検索	21	卒業研究論文の構成・作成
7	研究方法の選択(実験も含む)・文献検索	22	卒業研究論文の構成・作成
8	研究方法の選択(実験も含む)・文献検索	23	卒業研究論文の構成・作成
9	データの収集(実験も含む)・文献検索	24	卒業研究論文の構成・作成
10	データの収集(実験も含む)・文献検索	25	卒業研究論文の構成・作成
11	データの収集(実験も含む)・文献検索	26	卒業研究論文の構成・作成
12	データの収集(実験も含む)・文献検索	27	卒業研究論文発表会準備
13	データの収集(実験も含む)・文献検索	28	卒業研究論文発表会準備
14	データの収集(実験も含む)・文献検索	29	卒業研究論文発表会
15	データの収集(実験も含む)・文献検索	30	卒業研究論文の最終校正

【履修上の注意事項】

テーマを決定したら、文献検索によりデータ収集方法(実験方法)を本人が模索する。必要な場合のみ教員が指導を行う。

【評価方法】

卒業研究論文80%、ディスカッションの内容20%

【テキスト】

特に使用しない。

【参考文献】

テーマに即した文献検索ができない場合は、必要な文献を紹介する。

卒業研究論文

担当教員 石井 里加子

配当年次 4年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

【授業のねらい】

学習した基礎知識を基に、歯科衛生に関する疑問や課題を選定し、その問題に対して客観的・論理的に思考する力や問題を解決する力を養う。更に、収集した情報を整理、分析、考察し、研究論文を作成する力を習得する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	卒業研究の進め方と授業展開について	16	研究結果のまとめ1
2	研究テーマの検討1	17	研究結果のまとめ2
3	研究テーマの検討2	18	卒業研究論文執筆1
4	研究テーマの検討3	19	卒業研究論文執筆2
5	研究目的の設定	20	卒業研究論文執筆3
6	研究方法の検討1	21	卒業研究論文執筆4
7	研究方法の検討2	22	卒業研究論文執筆5
8	研究計画の作成	23	卒業研究論文執筆6
9	データ収集1	24	卒業研究論文執筆7
10	データ収集2	25	卒業研究論文執筆8
11	データ収集3	26	卒業研究論文執筆9
12	データ収集4	27	卒業研究発表準備1
13	データ収集・分析1	28	卒業研究発表準備2
14	データ収集・分析2	29	卒業研究発表
15	データ収集・分析3	30	卒業研究論文提出

【履修上の注意事項】

ゼミ形式。各自の興味や将来の方向性にそってテーマを選定し、主体的に取り組む。課題に対しては、事前に準備しプレゼン・討論に臨む。

【評価方法】

討論・協議等の内容、態度：20% プレゼン：20% 卒業研究論文：60%

【テキスト】

適宜紹介する

【参考文献】

適宜紹介する

歯科衛生研究の進め方・論文の書き方. 金澤紀子, 武井典子, 合場千佳子, 岩久正明編, 医歯薬出版

卒業研究論文

担当教員 石川 裕子

配当年次 4年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

【授業のねらい】

口腔保健学の専門家として科学的視点を持つことができるようになるために、倫理的配慮をしながら課題を設定し調査分析を行うなかで研究を論理的にまとめる力を習得する。①課題を設定し研究計画書を作成することができる②倫理的配慮をしながら研究を進めることができる③決められた体裁を守り卒業研究論文を作成することができる④プレゼンテーションを行うことができる

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	卒業研究論文概要説明	16	卒業研究論文の記載法について
2	文献検索方法	17	卒業研究論文作成
3	研究テーマの選択・文献検索	18	卒業研究論文作成
4	文献検索	19	卒業研究論文作成
5	文献検索	20	卒業研究論文作成
6	論文の構成と読み方	21	卒業研究論文作成
7	研究倫理について	22	卒業研究論文作成
8	研究方法の検討	23	卒業研究論文作成
9	研究計画書の作成	24	卒業研究論文作成
10	研究の実施：データの収集	25	卒業研究論文作成
11	データの収集・分析	26	卒業研究論文作成
12	データの収集・分析	27	卒業研究論文校正
13	データの収集・分析	28	卒業研究論文の最終校正
14	データの収集・分析	29	プレゼンテーションの方法
15	中間報告会	30	卒業研究論文発表会準備

【履修上の注意事項】

教員指導のもとで自主的に研究を進めること。ただし、定期的に教員に連絡を取り、進捗状況を知らせること。卒業研究論文は執筆要項および提出期日を守ること。

【評価方法】

卒業研究論文60%、研究計画書など研究途中作成したレポート20%、プレゼンテーション20%。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

適宜紹介する。

卒業研究論文

担当教員 前原 朝子

配当年次 4年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

【授業のねらい】

これまでの実習や授業等を通して自らの抱いた問題意識を手掛かりとして主体的に研究テーマを決定し、創造的かつ科学的に口腔保健学研究を推進する力を身につける。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	卒業論文オリエンテーション（授業展開等）	16	データ集計と分析
2	研究テーマの検討と文献検索について	17	データ集計と分析
3	研究テーマ検討のための文献検索と論文抄読	18	データ分析
4	研究テーマ検討のための文献検索と論文抄読	19	データ分析
5	研究テーマ検討のための文献検索と論文抄読	20	卒業研究論文執筆
6	研究テーマの決定と研究方法の検討	21	卒業研究論文執筆
7	研究方法の検討と文献検索・論文抄読	22	卒業研究論文執筆
8	研究方法の検討と文献検索・論文抄読	23	卒業研究論文執筆
9	研究方法の検討と文献検索・論文抄読	24	中間発表
10	研究計画書作成	25	卒業研究論文執筆
11	研究計画書作成	26	卒業研究論文執筆
12	データ収集と文献検索	27	卒業研究論文執筆
13	データ収集と文献検索	28	卒業研究論文執筆
14	データ収集と文献検索	29	卒業研究論文完成と発表準備
15	データ収集と文献検索	30	卒業研究論文発表

【履修上の注意事項】

ゼミ形式で行います。各自テーマを選定し、主体的に研究計画を立てて進めること。

【評価方法】

成果物60%、グループディスカッション時の発言内容30%、プレゼンテーション内容10%

【テキスト】

適宜紹介する

【参考文献】

適宜紹介する

卒業研究論文

担当教員 徳永 淳也

配当年次 4年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

【授業のねらい】

口腔保健の抱える諸問題をモチーフとして、人間のライフステージやコミュニティという視点から学際領域の知見を援用し、事象の本質に拘った課題設定とその探究が口腔保健学の推進にとって不可欠である。口腔保健学教育の総括として、客観的分析力、論理的思考力を涵養しながら、研究対象を深く理解しようとする態度と方法の修得をはかることが目標であり、科学的手続きに則って問題意識を捉えることの重要性や研究事象に対するアプローチ手順を理解し、創造的な研究活動を行う能力と視野の醸成を目指す。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	研究をとらえる視座(概論)	16	データ分析の実際、変数間の関連の検討
2	研究方法論概論	17	データ分析の実際、多変量を用いた分析
3	問題意識の発掘	18	結果の要約
4	研究領域とテーマ	19	結果表の作成
5	研究テーマの批判的吟味	20	論文構成の確認
6	研究領域の確認と文献検索	21	論文執筆、緒言で書くべきこと
7	文献の読み方と評価の仕方	22	論文執筆、対象と方法の記述方法
8	調査項目および対象者の決定	23	論文執筆、結果表の作成と書き方
9	研究フィールドとの調整方法、倫理的配慮	24	論文執筆、考察の構成
10	分析方法、枠組みの決定	25	論文執筆、緒言と考察の位置づけ
11	バイアスの理解とコントロール	26	論文執筆、要約の仕方
12	研究計画書の作成	27	論文構成と論理展開の確認
13	調査時のデータ管理	28	プレゼンテーションの意義と方法
14	データクリーニング	29	プレゼンテーション資料作成指導
15	データ分析の実際、記述統計	30	対象者への報告の意義とその方法

【履修上の注意事項】

本科目は、通年の研究活動となり登録後の履修変更はできないため、卒論執筆要項を熟読し求められる事項を理解し、論文作成計画に沿った確実な活動を行うこと。

【評価方法】

論文作成の各段階における討議内容(問題意識、着想、研究過程等)30%、成果物である論文70%で評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

適宜紹介する。

コミュニティ口腔保健実習指導

担当教員 淀川 尚子、徳永 淳也、近藤 悠美、新任教員、久家 誠司、平野 喜幸、木村 榮作
、Aye Chan Pwint

配当年次 4年

開講時期 第1学期

単位区分 選必

授業形態 講義・演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

多様な地域に暮らし人々の健康観や健康問題を適切にとらえ、社会、経済、文化の相違を受け入れた上で、理解と共感に基づいた持続可能かつ効果的な支援を行うことは、医療従事者として不可欠の姿勢である。本実習指導では、途上国のコミュニティにおける口腔保健、歯科医療の現状理解を基盤として、様々な立場にある地域住民の疾病感と対処行動様式を踏まえた、効果的な口腔保健教育・指導方法の検討を行い、コミュニティ口腔保健実習における対象を観察し理解する力を蓄えることを目的とする。

【授業の展開計画】

4年次第2学期に実施される「コミュニティ口腔保健実習」の実習地関係者からの講義・指導・助言ならびに、現地で使用する口腔保健教育についての教材や媒体を作成する。

1. コミュニティ口腔保健概論、実習計画概要と海外生活(淀川、徳永、近藤)
- 2-3. 国際開発とNGO活動-なぜ、海外支援なのか- (久家)
4. 国際協力論-開発とは何か- (平野)
5. 国際協力論-国際協力の出発点は貧困から- (平野)
6. ミャンマーにおける貧困発生メカニズム (エイチャンピン)
7. ミャンマーにおける貧困および人間開発(教育・保健)の現状 (エイチャンピン)
8. 新興国の現状(木村)
9. 新興国における歯科医療の展開(木村)
10. ミャンマーの文化と生活理解(エイチャンピン)
11. ミャンマーの言語とコミュニケーション方法(エイチャンピン)
12. コミュニティにおける口腔保健教育計画立案および指導案の作成(淀川、徳永、近藤)
13. 指導案にそった教育媒体の作成(淀川、徳永、近藤)
14. 教育媒体を使用したデモンストレーション(淀川、徳永、近藤)
15. 教育媒体のプレゼンテーションと評価(淀川、徳永、近藤)

【履修上の注意事項】

コミュニティ口腔保健実習履修希望者は必修とする。また、前年度までの卒業要件に関する所定の単位認定を受け、履修計画書による事前審査をにより履修が認められた者のみ履修を許可する。

講義テーマにあわせて予習を行い授業に臨むこと。

講義ごとにレポートを提出し、講義内容を振り返り復習すること。

【評価方法】

レポートおよび作成媒体による評価(100%)

【テキスト】

適宜配布する。

【参考文献】

適宜紹介する。

コミュニティ口腔保健実習

担当教員 淀川 尚子、近藤 悠美、徳永 淳也

配当年次 4年

開講時期 第2学期

単位区分 選必

授業形態 実習

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

多様な地域にくらす人々の健康観、疾病観を適切にとらえ、社会、経済、文化の相違を受け入れ理解と共感に基づいた持続的かつ効果的な支援を行うことは、医療従事者として不可欠の姿勢である。本実習では、コミュニティ口腔保健実習指導で培った知識・視点をもとに、新興国における歯科医療と口腔保健専門職の活動状況、各支援団体(NGO)の医療、保健、教育分野における協力活動等の体験を通じて、人々の健康観、疾病感と対処行動の理解を深め、国際的な口腔保健活動のあり方を模索しその展開可能性を探究する力を身につけることができる。

【授業の展開計画】

実施要領(予定)

※具体的な詳細は履修登録時に配布する実施計画書により提示する。

(1)期間:平成28年11月中旬の8日間(または9日間、実習内容により変動)

(2)実習国および地域:タイ王国(バンコク市、メーソット市)またはミャンマー連邦共和国(パテイン市近郊)

(3)実習地および内容

各実習地・施設の概要

1) 歯科診療所(バンコク市内dental clinic、日本人歯科医開設医院)における診療見学、患者スタッフ(日本人歯科衛生士勤務)との意見交換(1日間)

2) 幼稚園(NGO開設)における口腔保健教育の現状視察:(バンコク市 クロントイ地区)(1日間)

3) メータオクリニック 歯科医療センター(ターク県メーソット市、歯科センター診療部長は、日本人歯科医)およびミャンマー人移民学校における学校歯科検診視察(1日間)

4) ミャンマー難民キャンプ(ターク県メラ)における図書館、小学校での口腔保健教育(NGO活動のブリーフィング含む)(2日間)

5) ミャンマー連邦共和国地方農村における小学校での口腔保健教育(3日間)

6) ミャンマー連邦共和国パテイン大学における学生間交流(ワークショップ)(1日)

7) ミャンマー連邦共和国児童養護施設における口腔保健教育(1日)

※調整中

【履修上の注意事項】

コミュニティ口腔保健実習指導を履修し、単位認定を受けている者のみを受講対象者とする。

毎日の事前ミーティングにより活動内容の確認を行い、事後ミーティングでは実習成果を発表して記録にまとめる。

【評価方法】

実習中の活動評価(実習課題の達成度、態度)70%、最終報告レポート30%の割合で評価する。

【テキスト】

特に使用しない。

【参考文献】

適宜紹介する。

ライフステージ口腔保健実習

担当教員 石井 里加子、松尾 文、前原 朝子

配当年次 4年

開講時期 第1学期

単位区分 選必

授業形態 実習

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

人々の各ライフステージの各段階や諸相において適切にケアをとらえ、その人に相応しい豊かな健康や生活の実現を支援する能力は、口腔保健専門職にとって必須である。とりわけ人間にとって最大のイベントである“誕生”と“人生”の終末期において人生と健康の関わりを深く見つめる洞察力と人々の生の営みに関わり続けようとする態度の涵養は口腔保健専門職にも必須である。口腔保健という視点から人々の多様な健康観の理解を深め、健やかな顎口腔機能の発育・発達ならびに生活の質の向上を支援する口腔保健専門職の技術と態度を習得する。

【授業の展開計画】

実習施設：産婦人科診療所および緩和ケア病棟を設置する病院

1) 産婦人診療所

妊産婦自身が口腔保健に関する知識や技術、態度を修得する過程に口腔保健専門職として関わり、母子における口腔保健、口腔機能発達・維持という視点から口腔保健指導や離乳食等の食事指導を実施することにより、妊産婦ならびに児の健やかな口腔の健康を支援する能力と態度を養う

- ・実習概要および施設概要の説明
- ・事前指導：口腔保健教育指導演習、実習施設でのオリエンテーション
- ・実習（2日）
 - 産科医療の概要
 - 健康教育：妊産婦に対する口腔保健教育指導（妊産婦自身および乳幼児の口腔保健・食生活）
- ・事後指導

2) 緩和ケア病棟を設置する病院

緩和ケアを必要としている患者は全身状態の低下、口腔機能ならびに自浄作用の低下により生活(QOL)の質の低下に繋がりがやすい。緩和ケアを必要としている患者の全人的苦痛ならびに家族を理解するとともに終末期を自分らしく生き抜こうとする患者に寄り添い、患者の自己実現と生活の質を口腔保健という視点から支援できる能力を養う

- ・実習概要および施設概要の説明
- ・事前指導：緩和ケアを必要としている患者の口腔の特徴の理解、口腔ケア演習
- ・実習（2日）
 - 緩和ケア病棟の概要
 - ケア(口腔ケアを含む)実習
 - 患者、家族、ボランティアとの交流
- ・事後指導

【履修上の注意事項】

ライフステージ口腔保健実習指導の単位を修得し、事前指導を全て受講すること。ライフステージ口腔保健実習指導の講義・演習であがった学習課題、目標を達成するための事前学習および作成した口腔保健指導媒体を熟達しておくこと。事後学習は学びの振り返りを行い学習成果をまとめる。

【評価方法】

実習記録・課題（30%）、指導者評価（40%）、最終報告レポート（30%）の総合評価。

【テキスト】

特に使用しない。

【参考文献】

適宜紹介する。

ライフステージ口腔保健実習指導

担当教員 石井 里加子、松尾 文、前原 朝子、未定、島村 美香

配当年次 4年

開講時期 第1学期

単位区分 選必

授業形態 講義・演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

人々のライフステージの段階や諸相において適切にニーズをとらえ、その人に相応しい豊かな健康や生活の実現を支援する能力は、口腔保健の専門職にとっても必須である。本実習指導ではライフステージ(産科・緩和ケア)における対象者の理解と効果的な口腔保健教育指導、援助の検討を行い、ライフステージ口腔保健実習における対象を理解する力、口腔保健の立場からの介入や他職種との連携について思考力を蓄えることを目的とする。

【授業の展開計画】

以下の講義予定に沿って実施されるが、各講義では各実習施設における口腔保健教育時に使用する教材、媒体作成および実習指導者からの講義を実施し実習指導を受ける。

- | | |
|------------------------------------|---------------|
| 1. ライフステージ口腔保健の概要を理解する | (石井、松尾、前原) |
| 2. 産科におけるニーズを挙げ、口腔保健指導の要点について説明できる | (松尾、石井、前原) |
| 3. 産科における口腔保健教育計画を立案する | (松尾、石井、前原) |
| 4. 妊産婦、新生児(乳児)の特徴を理解する | (宮里、松尾・石井・前原) |
| 5. 妊産婦、新生児(乳児)への保健指導を学ぶ | (宮里、松尾・石井・前原) |
| 6. 妊産婦指導の教育媒体を作成する | (松尾、石井、前原) |
| 7. 乳幼児指導の教育媒体を作成する | (松尾、石井、前原) |
| 8. 教育媒体を使用した口腔保健指導(ロールプレイ)を体験する | (松尾、石井、前原) |
| 9. 緩和ケアの概念を理解する | (島村、石井、松尾、前原) |
| 10. 緩和ケアを必要としている人とその家族のニーズを考える | (島村、石井、松尾、前原) |
| 11. 緩和ケアを必要としている人とその家族への看護ケアを考える | (島村、石井、松尾、前原) |
| 12. 痛みのマネージメントを学ぶ | (勇、石井、松尾、前原) |
| 13. 協働する多職種の役割を理解する | (勇、石井、松尾、前原) |
| 14. 緩和ケアにおける口腔のケアの実際を習得する | (石井、松尾、前原) |
| 15. 緩和ケアにおける歯科保健指導媒体を作成する | (石井、松尾、前原) |

【履修上の注意事項】

ライフステージ口腔保健実習希望者は必修とする前年度までに卒業要件に関する所定の単位認定を受け、履修計画による事前審査をへて履修が認められた者のみ履修を許可する。領域に関連する資料や書籍を提示するので事前学習を行う。産科領域は作成した媒体を使い口腔保健指導を行うので講義演習からの学習課題を挙げ整理復習してライフステージ口腔保健実習につなげる。緩和ケア領域は実際現場で看護を実践している認定看護師が講義するので、学びの振り返りを行い各自の学習課題を整理してライフステージ口腔保健実習につなげる。

【評価方法】

レポート30%、課題や作成媒体70% による総合評価

【テキスト】

緩和・ターミナルケア看護論および講義中に資料を配布する。

【参考文献】

適宜紹介する。

臨床心理学

担当教員 永田 俊明

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 選必

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この授業は、現代の心理学の全体的な動向をコンセプトにした「心理学・臨床講義」というスタンスに立って、必要な基礎的な知識の習得を目指す。とかく従来の臨床心理学は単なる学派の羅列的理解が中心であることが多いが、この授業では、正常との連続変数及び心理学的援助対象のケアシステムの一部として、現代の代表的な心理病理現象をどのように診立て、また、援助を行う必要があるかについての基本知識の習得と心理的援助の勘所に焦点を当てながら理解を深めていく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	臨床心理学とは何か（1）史的概説を中心に
2	臨床心理学とは何か（2）精神医学との相違
3	面接と検査 アセスメント
4	観察と行動 データ収集技法
5	正常と異常 DSMを中心に
6	異常心理学 精神的な症状と心理学
7	精神障害 心理的問題と種類
8	発達臨床心理学 ライフサイクルと心理的問題
9	介入理論モデル（1）精神分析とクライエント中心療法
10	介入理論モデル（2）認知行動療法と家族療法
11	介入技法モデル（1）遊戯・箱庭療法
12	介入技法モデル（2）SSTと心理教育
13	介入技法モデル（3）さまざまな相談活動
14	コミュニティ・モデル
15	医療・福祉領域の臨床心理学

【履修上の注意事項】

現代の心理病理現象について、事前事後の学習をしておくこと。

【評価方法】

期末試験：100%で評価 *本講義の再試験は実施しない。

【テキスト】

未定

【参考文献】

『精神医学事典』加藤・保崎他編 弘文堂2001年 『心理アセスメントハンドブック』上里監 2001年
『DSM-IV精神疾患の診断・統計マニュアル』加藤他監編 医学書院 1996年

障害児心理学

担当教員 水間 宗幸

配当年次 2年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

基本的な発達に基づいた人間理解を基盤とし、「障害」の多様な考え方を理解することができる。また、生涯発達支援の考え方に沿い、さまざまな障害の特性を理解し、適切な援助のあり方を考察することができるようになることを目的とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	「障害」に対する考え方
2	こころ・からだ・ことばの発達（1）
3	こころ・からだ・ことばの発達（2）
4	こころ・からだ・ことばの発達（3）
5	社会性の発達と障害
6	ことばの障害
7	聞こえの障害
8	視覚障害
9	知的障害
10	聴覚・言語障害
11	身体障害（肢体不自由）
12	発達障害① 自閉症
13	発達障害② アスペルガー障害、高機能広汎性発達障害
14	発達障害③ 学習障害
15	発達障害④ 注意欠陥多動性障害

【履修上の注意事項】

予習・復習を行うこと。特に、次回の講義で扱う内容について、必ず教科書を読んでおくこと。

【評価方法】

総合的な学びの理解と確認のため筆記試験による評価を行う。

【テキスト】

改訂新版 障害児者の理解と教育・支援（金子書房） 橋本創一他編著

【参考文献】

授業の中で紹介

感覚・知覚の行動心理

担当教員 山住 賢司

配当年次 2年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

我々人間は感覚・知覚を通じて外界の情報を得ている。感覚や知覚の働きがなければ、自己の存在を含め、どんな存在も認識することは出来ないだろう。心理学の分野では感覚・知覚の研究は古くから関心がもたれ、行動の科学としての心理学の実験テーマとして研究されてきた。本講義では、心のはたらきとしての感覚・知覚についての基礎的な知識や心理学における研究法などについて取り上げ、それらを理解し説明できるようになることを目的とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	感覚・知覚とは
2	感覚・知覚心理学の歴史と方法論
3	精神物理学的測定法と刺激閾・弁別閾
4	視覚：視覚システムと基礎機能
5	視覚：明るさ・色の知覚
6	視覚：形の知覚
7	視覚：3次元空間の知覚
8	視覚：運動の知覚
9	聴覚：聴覚系の機能と構造
10	聴覚：聴覚の知覚的性質
11	聴覚：音声の知覚
12	聴覚：音楽の知覚・認知
13	身体感覚
14	味覚と嗅覚
15	多感覚相互作用

【履修上の注意事項】

講義に加え簡単なデモンストレーションも行う予定である。
 欠席が多いと単位取得資格を満たせないことを理解しておくこと。
 事前学習として各回の内容について参考文献などを参照しておくこと。
 また講義終了後に、各回の配布資料の内容を復習すること。

【評価方法】

定期試験の得点100%で成績を評価する。
 再試験は実施しない。

【テキスト】

使用せず、講義中に随時資料を配布する。

【参考文献】

「朝倉心理学講座6 感覚知覚心理学」 菊地正（編） 朝倉書店 2008
 「知覚心理学 一心の入り口を科学する」 北岡明佳（編著） ミネルヴァ書房 2011

こころのしくみの理解

担当教員 永田 俊明

配当年次 1年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

社会から求められる医療人の育成のために、心理学の知見と医療現場で求められる知識や考え方を理解することを目指す。そのために、人間についての基本的理解、現場に役立つ実践的な心理学の習得、患者理解のための心理学及び歯科患者の心理などについて理解できるようにする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	シラバス説明 オリエンテーション 一般心理学との違い等
2	生理心理学と大脳生理
3	こころと身体の世界
4	こころと行動の形成
5	こころと行動の発達
6	こころの個性と深層
7	こころの適応と障がい
8	こころと身体の臨床心理
9	対人援助者と患者の人間関係
10	対人援助に役立つ心理テスト
11	医療に役立つ心理療法
12	被援助者の心理メカニズム
13	ストレスとコーピング
14	こころのしくみ
15	こころのしくみ (進化心理学)

【履修上の注意事項】

本科目は再試験を実施しない。したがって、日頃からの出席とノートテークをしっかりとしないと単位取得は難しい。さらに事前・事後の学習を怠らないこと。

【評価方法】

定期試験：100点で評価する

【テキスト】

未使用

【参考文献】

各單元ごとに紹介していく

社会福祉原論 I

担当教員 金 蘭九

配当年次 1年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

- 1 現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。
- 2 福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解する。
- 3 福祉政策におけるニーズと資源について理解する。
- 4 社会福祉の法体系、実施体制及び財政全体の概要について理解する。
- 5 福祉政策の課題について理解する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション、現代社会と福祉
2	福祉制度の概念と理念
3	福祉政策の概念と理念
4	福祉制度と福祉政策の関係
5	前近代社会と福祉1（救貧法、慈善事業）
6	前近代社会と福祉2（博愛事業、相互扶助、その他）
7	近代社会と福祉1（第二次世界大戦後の窮乏社会と福祉）
8	近代社会と福祉2（経済成長と福祉、その他）
9	現代社会と福祉1（新自由主義、ポスト産業主義、グローバル化）
10	現代社会と福祉2（リスク社会、福祉多元主義、その他）
11	需要とニーズの概念（需要の定義、ニーズの定義、その他）
12	資源の概念（資源の定義、その他）
13	福祉政策と社会問題1（貧困、失業、要援護〈児童、老齢、障害、母子・寡婦等〉、偏見と差別）
14	福祉政策と社会問題2（社会的排除、ヴァルネラビリティ、リスク、その他）
15	福祉政策の現代的課題

【履修上の注意事項】

授業前にテキストを読み、キーワードについて調べてくること。
授業後に復習しておくこと。

【評価方法】

定期試験60%、レポート20%、発表20%で評価する。

【テキスト】

社会福祉士養成講座編集委員会編『現代社会と福祉』第4版（中央法規、2017年）。

【参考文献】

厚生労働省編『（平成28年版）厚生労働白書』（ぎょうせい、2016年）。
内閣府編『（平成28年版）障害者白書』（日経印刷、2016年）。『社会福祉六法』（最新版）。

看護学概論

担当教員 柴田 恵子、上妻 尚子、新 裕紀子、古江 佳織、古堅 裕章

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選必

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

看護専門職としての自己の健康観、看護観を迫するために必要となる知識、概念を理解する。看護の対象および看護の提供、歴史・制度および将来の専門職の展望に関する知識から基礎的な看護学について理解する。

【授業の展開計画】

第1回目のオリエンテーション時に、詳細な授業計画および本教科の履修について説明を行なう。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション、看護学概論とは（柴田）
2	人間の欲求と健康、健康のとらえ方（上妻）
3	国民の健康状態（上妻）
4	看護の対象の理解（上妻）
5	災害時における看護（上妻）
6	国際化と看護、グループワーク：国際化と医療職者（古江）
7	サービスとしての看護、看護サービス提供の場（古堅）
8	医療安全と医療の質保証（古江）
9	小テスト1、ナイチンゲールについて（柴田）
10	職業としての看護・看護職者の養成制度と就業状況（古堅）
11	看護職者の教育とキャリア開発（柴田）
12	看護における倫理（柴田）
13	看護の提供のしくみ：看護をめぐる制度と政策（柴田）
14	小テスト2、看護とはなにか（柴田）
15	グループワーク：医療職者における専門性、学習のまとめ（柴田）

【履修上の注意事項】

課題について考え、レポートを提出する。第1回目のオリエンテーション時に授業前・後の学習について説明をするので、具体的な学習方法を考え実践すること。課題レポートは授業前の事前学習であり、講義期間中の小テストはそれまでの学習の復習を兼ねた事後学習である。

【評価方法】

筆記試験：60%、学習態度・状況（小テスト、レポート提出、グループ活動の参加と発表）：40%

【テキスト】

系統看護学講座 基礎看護学（1）、茂野香おる 他（医学書院）

【参考文献】

随時、紹介する。

介護概論

担当教員 前田 公江

配当年次 2年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

1. 介護の理念とその枠組みについて学習し、人間尊重と自立支援を目指した新しい介護の考え方を理解する。
2. 歴史的展開を理解すると共に、現代社会における介護の在り方や関係職種間の連携の重要性について学ぶ。
3. 介護援助における倫理及び援助者としての基本的態度を身につけ、個々の利用者に応じた介護技術のあり方を探求する。
4. 介護を通して「人間としての尊厳」や「その人らしい生き方」について学び、人間観や思考を深める。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	今、なぜ専門職が担う介護が必要なのか、少子高齢化社会の背景から把握する
2	高齢者の特性を理解する：社会的理解・身体的理解
3	高齢者の特性を理解する：心理的理解・介護従事者としての総合的理解
4	介護の概念や対象について
5	介護保険制度の仕組みとサービス体系について
6	地域で支える介護の必要性と介護予防の概念を理解する
7	高齢者の尊厳を支える介護における専門職の役割と実際
8	介護過程の概要と展開
9	介護各論①：自立に向けた介護・家事における自立支援
10	介護各論①：身支度、移動、睡眠の介護の実際・食事、口腔衛生の介護
11	介護各論①：入浴、清潔、排泄の介護
12	介護各論②：認知症ケア
13	介護各論②：終末期ケア・住環境
14	事例検討：介護サービス計画
15	事例検討：認知症ケア

【履修上の注意事項】

単位認定資格は出席3分の2以上が条件です。20分以上の遅刻は欠席とみなします。
授業展開計画は多少前後することがあるため、毎回プリントを配布します。授業で触れた内容については教科書を読み込みしっかり復習し、次回の講義に備えてください。

【評価方法】

授業内容感想小レポートの提出及び講義・演習への参加意欲 20% 筆記試験 80%

【テキスト】

「高齢者に対する支援と介護保険制度」社会福祉士養成講座編集委員会編（中央法規）

【参考文献】

適宜、講義の中で紹介する。

高齢者福祉論 I

担当教員 後藤 秀昭

配当年次 2年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

1. 高齢者への支援に必要な介護保険法の諸手続き方法、居宅・施設サービスの種類、地域支援事業、地域包括支援センターの機能や役割について理解できる。
2. 高齢者への総合的相談援助に必要な高齢者諸関係法を理解できる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	介護保険法目的、保険者と被保険者、保険料を理解させる。
2	介護保険法の要介護認定の仕組みとプロセスを理解させる。
3	介護保険サービスの体系を理解させる。
4	介護保険法の居宅・介護予防・地域密着型サービス、住宅改修を理解させる。
5	介護保険法の施設サービスの種類、役割、機能を理解させる。
6	地域包括支援センターの役割と実際を理解させる。
7	介護保険法における地域支援事業、苦情処理、審査請求、介護保険制度の最近の動向を理解させる。
8	介護保険法における組織及び団体の役割と実際を理解させる。
9	介護保険法における専門職の役割と実際を理解させる。
10	介護保険法におけるネットワークとその実際を理解させる。
11	老人福祉法の歴史と概要、サービスと援助を理解させる。
12	高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律を理解させる。
13	高齢者の権利擁護と成年後見制度を理解させる。
14	高齢者の居住の安定確保に関する法律を理解させる。
15	その他の高齢者関連法と諸施策を理解させる。

【履修上の注意事項】

毎回講義資料を配布するので、授業後はその資料をもう一度通読し、テキストの内容も参照しながら復習し、理解を深めること。
また、講義資料は前回の授業時に予め配布しておくので予習をしておくこと。

【評価方法】

定期試験（100％）で評価する。

【テキスト】

社会福祉士養成講座編集委員会編『高齢者に対する支援と介護保険制度-高齢者福祉論-』（最新版）中央法規。
野崎和義監修『社会福祉六法』（最新版）ミネルヴァ書房。

【参考文献】

授業中、適宜紹介

障害者福祉論 I

担当教員 金 蘭九

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 選必

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- 1 障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢や福祉・介護需要（地域移行や就労の実態を含む）について理解する。
- 2 障害者福祉制度の発達過程について理解する。
- 3 相談援助活動において必要となる障害者総合支援法や障害者の福祉・介護に係る他の法制度について理解する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要
2	障害者福祉制度の発達過程
3	障害者総合支援法
4	障害者総合支援法における組織及び団体の役割と実際
5	障害者総合支援法における専門職の役割と実際
6	障害者総合支援法における多職種連携、ネットワーキングと実際
7	相談支援事業所の役割と実際
8	身体障害者福祉法
9	知的障害者福祉法
10	精神保健及び精神障害者福祉に関する法律
11	発達障害者支援法
12	障害者基本法
13	心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律
14	高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律
15	障害者の雇用の促進等に関する法律

【履修上の注意事項】

授業前にテキストを読み、キーワードについて調べてくること。
授業後に復習しておくこと。

【評価方法】

定期試験60%、レポート20%、発表20%で評価する。

【テキスト】

社会福祉士養成講座編集委員会編『障害者に対する支援と障害者自立支援制度』第5版（中央法規、2017年）。

【参考文献】

厚生労働省編『（平成28年版）厚生労働白書』（ぎょうせい、2016年）。
内閣府編『（平成28年版）障害者白書』（日経印刷、2016年）。『社会福祉六法』（最新版）。

児童福祉論 I

担当教員 金和 史岐子

配当年次 2年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

- 1 児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要を理解できる。
- 2 児童・家庭福祉制度の発展過程を理解できる。
- 3 児童の権利について理解できる。
- 4 児童・家庭福祉制度や児童・家庭福祉に係る他の法制度について理解できる。

【授業の展開計画】

[授業全体の内容の概要]

児童・家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度を児童の権利から理解できる。

[授業終了時の達成課題]

社会情勢を学び、歯科衛生士に必要な児童・家庭福祉制度の最近の動向を理解できる。

週	授 業 の 内 容
1	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度の概要・課題
2	子どもと家庭福祉の理念・定義
3	子どもと家庭の権利保障
4	子ども家庭福祉の発展
5	現代社会と子ども・家庭
6	子ども家庭福祉にかかわる法制度
7	児童相談所の役割と実際
8	子どもの貧困
9	母子保健
10	障害・難病のある子どもと家庭への支援
11	児童健全育成・保育
12	社会的養護
13	非行・情緒障害
14	児童虐待
15	児童・家庭に対する相談援助活動

【履修上の注意事項】

この科目は、社会福祉学科及び口腔保健学科の学生を対象に開講される。社会福祉学科においては社会福祉士養成課程科目の一つである。授業前にテキストを読むこと。授業後にポイントをおさえて復習しておくこと。

【評価方法】

試験（もしくはレポート）70点、授業内レポート30点により評価する。

【テキスト】

『児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度』、新社会福祉士養成講座、中央法規。

【参考文献】

随時、授業時に紹介する。

福祉法学

担当教員 野崎 和義

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 選必

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

以下の各点について理解する。

- ①相談援助活動と法、②相談援助活動と成年後見制度、③成年後見制度の実際、④社会的排除や虐待などの権利侵害、認知症などで日常生活上の支援が必要な者に対する権利擁護活動の実際。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	相談援助活動と法との関わり（1）：日本国憲法の基本原理、民法等の理解
2	相談援助活動と法との関わり（2）：行政法の理解、福祉関連法の理解
3	成年後見制度（1）：制度の概要（法定後見と任意後見、制限行為能力）
4	成年後見制度（2）：法定後見の各類型と申立て手続き
5	成年後見制度（3）：任意後見とその利用手続き
6	成年後見制度（4）：成年後見人の職務と権限、その課題（医療同意権等）
7	成年後見制度利用支援事業：事業の概要、対象者、制度の根拠
8	日常生活自立支援事業（1）：事業の概要（専門員、生活支援員の役割）
9	日常生活自立支援事業（2）：成年後見制度との連携
10	権利擁護に関わる組織と団体：家庭裁判所、市町村、社会福祉協議会等の役割
11	権利擁護に関わる専門職：弁護士、司法書士、社会福祉士等の活動の実際
12	成年後見活動の実際：消費者被害を受けた者への対応、障害児・者への支援等
13	権利擁護活動の実際（1）：被虐待児・者への対応、高齢者虐待への対応等
14	権利擁護活動の実際（2）：非行少年への対応、ホームレスへの対応等
15	障害者と法：障害者虐待防止法、障害者差別解消法

【履修上の注意事項】

- ・準備学習：各回のテーマに即して教科書を読んでおくこと。
- ・事後学習：講義で示された課題をもとに教科書および関連事項を整理すること。
- ・講義の進行は、理解度に応じて変更することがある。その際には、あらかじめ通知する。

【評価方法】

定期試験（100％）の成績によって評価する。

【テキスト】

野崎和義著『福祉法学』2013年、ミネルヴァ書房。

野崎和義監修『社会福祉六法』2017年、ミネルヴァ書房（過年度版でも可）。

【参考文献】

国際協力論

担当教員 安藤 学、川原 英照、川原 光祐、久家 誠司

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選必

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

今日、貧困・教育・紛争・環境破壊・エイズ・食糧問題など地球規模の諸問題はますます深刻な状況にあります。このような問題は、私たち日本人にとっても遠い国の問題ではありません。私たちも国際社会の一員として、世界の国々と協調連帯して国際協力を推進するための能力を修得することができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	国際協力とは何か(安藤)
2	政府開発援助(安藤)
3	政府開発援助の事例(安藤)
4	NGOにおける民間協力(安藤)
5	NGOにおける民間協力の事例(安藤)
6	技術協力の方法(川原光祐)
7	技術協力の方法の事例(久家)
8	参加型開発(久家)
9	参加型開発の事例(安藤)
10	国際協力の理念(久家)
11	国際協力の理念の事例(久家)
12	国際協力の事例(民間)(久家)
13	国際協力の事例(政府)(川原英照)
14	国際理解と支援活動(安藤・前田)
15	今後の国際協力のあり方(安藤)

【履修上の注意事項】

オムニバスであるので、毎回の出席を心がける。授業前に出された課題を完成させて授業に臨み、授業後は授業前の課題と授業で学んだことを比較して復習をすること。

【評価方法】

レポート80% 授業への取り組み20%

【テキスト】

資料を準備する

【参考文献】

適宜紹介する

危機管理と災害支援

担当教員 安藤 学

配当年次 1年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

日常生活の中においても、危険は常に存在する。もちろん日常生活だけではなく拡大して考えれば地球上にはいろんな危険が存在しており、それに対する危機管理が必要である。家庭内の危険から出発し国際紛争までにいたる危機管理について学ぶ。

そして、災害についての危機管理と災害発生後の支援のあり方について検討するための能力を修得することができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	危機とは何か
2	危険とは何か
3	危機管理とは何か
4	家庭における危険と危機管理
5	地域社会における危険と危機管理
6	学校における危険と危機管理
7	企業における危険と危機管理
8	国家における危険と危機管理
9	国家間へのバランスと危機管理
10	現場からの危機管理（外部講師 海上）
11	現場からの危機管理（外部講師 陸上）
12	災害支援の方法（災害発生時）
13	災害支援の方法（自活生存）
14	災害支援の方法（避難救助）
15	危機管理をはじめよう

【履修上の注意事項】

授業前に出された課題を完成させて授業に臨み、授業後は授業前の課題と授業で学んだことを比較して復習をすること。

【評価方法】

レポート80% 授業への取り組み20%

【テキスト】

なし

【参考文献】

適宜紹介する

災害支援演習

担当教員 安藤 学

配当年次 2年

単位区分 選必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

災害支援の場合、常に支援協力活動にあたる要員の為に、快適な宿泊設備、生活物資が用意されているとは限らない。むしろ多くの場合が、災害被災地であったり、生活物資の不足する場所での支援協力活動である。支援協力活動において任務を遂行するために、まず自分自身の安全の確保と生命の維持が確保されなければならないし、またチームワークも重要である。この演習では、協力協同の精神を涵養し災害場面を想定して自活生存、生命維持のための基本的な方法と共に、支援活動に必要な基本技術を修得できる。

【授業の展開計画】

この演習では、「海上訓練」と「陸上訓練」に分けて集中的に実施する。

「海上訓練」では短艇(カッター)を用いて協同協力の精神を養い、「陸上訓練」では実際にテントを設営し野営して自活生存方法を修得する。また「海上訓練」「陸上訓練」を通じてチームワークの重要性を学ぶ。実施の時期については、前もってオリエンテーションを開き説明指導する。ただしこの演習で、他の授業に支障(公欠で授業を欠席)がでないように、夏季休暇中の実施する。

「海上訓練」(9月上旬 4日間 長洲海洋センター/前面海域)

短艇(カッター)・帆走(ヨット)・結索(ロープワーク)・安全管理・気象観測・溺者救助・応急処置・信号通信・統率(指揮)法

「陸上訓練」(9月中旬 2泊3日 大学構内/蛇が谷公園)

オリエンタリング(地図見・コンパス見方)・ロープ技術(ロープ渡り・降下等)・野営方法(テント設営・炊飯等)・安全管理・救急処置(傷病者搬送方法含む)・統率(指揮)法

※ 「海上訓練」・「陸上訓練」とも、学内において事前指導を行った後に実施する。

【履修上の注意事項】

演習に際しては、安全確保のために指定の作業着・帽子・作業靴を着用する。(作業着等については、貸与するが、食事代と作業服のクリーニング代は各自負担) 演習前に出された課題を完成させて授業に臨み、演習後は演習で学んだことを復習をすること。事前に配布された資料を学習しておき、演習終了後は各自で復習を定期的におこなうこと。

【評価方法】

技能(80%)、演習態度(20%)

【テキスト】

プリントを配布する

【参考文献】

なし